



第4号 2010年3月 発行

発行者：宮古島市立教育研究所

所長 本村 幸雄

住 所：〒906-0392

沖縄県宮古島市下地字上地472-39

宮古島市下地庁舎3階

電 話：0980-76-6400 F A X：0980-76-6154

http://www3.city.miyakojima.lg.jp/kenkyusyo/



在り方生き方教育の充実を

所長 本村 幸雄

道徳教育の研究を進めていく中で「人間としての在り方生き方」をどうとらえて指導していくかが課題となった。在り方生き方教育という言葉は平成元年から登場し、その後、小中学校の教育課程にも出てきている。「人間としての在り方生き方」概念については、「自分自身に固有な選択基準ないし判断基準」としている。

高等学校学習指導要領解説では判断基準・選択基準のもつ意味について「人間は、同じような状況の下に置かれている場合でもすべて同じ生き方をするとは限らない。・・・一定の行為を自分自身の判断基準に基づいて選択するということ、主体的に行動するということである」と述べている。主体的に生きるための能力として、自分自身の判断基準・選択基準を育てるのが「人間としての在り方生き方」教育といえる。

人間としての在り方生き方に関する教育は、高等学校の道徳教育として位置づけられている。また、小中学校の道徳教育の目標となっている「道徳性」はここに結びつく。

道徳教育は、道徳性の育成を目指す教育活動であり、道徳性とは、人間の基盤をなすもの、人間らしいよさのことである。道徳の時間は、人間としての生き方についての学びが学習される時間である。

人は、その人の置かれている環境をどう認知するかで、ある行動に出るといふ。例えば、暴走族の行為を見てA少年は、カッコいい私もやってみたいと憧れ、B少年はこれは違反行為であるやっちはいけないと考える。なぜ同じ暴走行為を見て判断基準が違ってくるのでしょうか。

私たちの判断の基準となり、行動を選択する基準となるのは二つの要素からなっているとい

う。一つは、感覚、感情、欲などの生得的なものであり、二つは、善い、美しい、正しいなどを大切にしようとする価値意識である。この二つの要素が重なり合って判断基準・選択基準がつけられる。

価値意識は、家庭教育をはじめとして、学校教育・地域の教育・社会教育という広い教育によって形成されいく。生得的なものとは価値意識をバランスよく育むことによって自分らしく生き、行動するための行動の判断基準・選択基準が形成されていく。

この教育を学校教育の中で、どのように推進していけばよいか。一つに教育活動の組織体として取り組み、中心的役割を果たす道徳教育を充実する。二つに在り方生き方教育の理念を明確にし学校経営の充実をめぐる。三つに地域や生徒の実態に即した教育課程を編成し学校の特色化を推進する。以上3点あげられるが、要は日頃から教師自身が、在り方生き方教育を基盤として、教師として研鑽していくことが重要である。

==== 目次 ====

- 在り方生き方教育の充実を - 1 -
- 長期研修を終えて - 2 -
- 教育相談室より - 3 -
- 「まていだ教室」での学び - 3 -
- 研修会だより - 4 -

長期研修を終えて



第6期 伊良部小学校

教諭 下地 沙織

「道徳の時間を児童の心を豊かに育むことのできる時間にしたい」という思いで4月から道徳の時間の研究に取り組んできました。

自分を見つめさせる手立てを持って、道徳的価値の自覚を深めさせ、人間としての生き方を考えさせるような道徳の授業を実践することにより、児童は自分自身の生活を振り返り、自分の将来の姿を思い描き、これからの生き方を考えることができるという検証をしました。こうした検証授業を積み重ねることにより、日々の道徳的実践へつながっていくものだと考えます。

道徳の授業をすれば、その後すぐに児童は変わるというわけではありませんが今回の研修をもとに、道徳の授業の充実を図ることにより、児童一人ひとりが自分のよさを発揮し、児童相互やその他の人々との関わりを大切にする心を育むきっかけになることを信じ、これからの現場での教育活動に励んで行きたいと考えます。

教職について6年目の私に何がきるか？不安で始まった研修ですが、現場を離れることでかえって客観的にまた、深く児童を見ることができました。時間的にゆとりのある中で、心おきなく教材研究に取り組むことができ、児童の反応や変容を思い浮かべながら指導の工夫に取り組むことができました。それにより、楽しみにも似た気持ちで検証授業に臨むことができました。

所長をはじめ、指導主事、研究所の職員の皆さん、論文指導の緒方先生、研究を認めてくださった教育員会、教育事務所の砂川主事、公開授業、研究報告会に参加してくださった先生方に感謝します。ありがとうございます。また、快く研究所へ送り出してください、更に検証授業等いろいろ支援して下さった、伊計校長をはじめ伊良部小学校の先生方ありがとうございました。

研究所での半年間は、毎日が新鮮で、所長をはじめ指導主事、まていだ教室の先生方、相談室の先生方と研究期間の昼休みまでも楽しく充実した時間を過ごすことが出来ました。

「自分を見つめること」を手段に研究に取り組む中、教師として、一人の人間として自分自身を見つめる機会となりました。

これからも、子ども達の心、自分の心、これから出会うすべての人に心を通わせ、よりよい教員生活を過ごしていきたいと思えます。



第7期 東小学校

教諭 近藤 崇士

10月1日、晴れて宮古島市立教育研究所第7期の研究教員となりました。「晴れて」と表現した理由には、学校現場を離れて半年間の研究がじっくりできることや、学校現場には頻りに参加できない研究発表会などに参加でき、多くの研鑽を積むことができることがあげられます。このメリットを十分に生かして6ヶ月間の研修を行いました。

新学習指導要領の内容を前倒して実施されている算数科において「表現力を育成する授業の創造」というテーマを掲げ、児童が思考力や表現力をどのようにしたら身につけることができるかを研究してきました。そこで出会ったのが「ふきだし法」でした。20年の研究に裏づけされた指導法

で魅力がありましたが、「ふきだし法」による実践を見たことがなく、不安も多々ある中での研究でした。しかし、その不安を払拭してくれたのは子どもたちでした。実践期間が短いにもかかわらず、「ふきだし法」によるノートの使い方にも順応し、日に日に表現力をつけていき、友だちとのコミュニケーションも積極的に行う姿を見て、研究の内容に自信をもつことができました。

半年間を長いと思入所した10月でしたが、研究を進めるうちに、あっという間に3月を迎えました。研究成果を集録に収めることができ、報告会も無事終わることができた今感じることは、本研究が、本村幸雄所長、乾邦夫指導主事、東小学校の久貝勝宣校長先生、その他多くの方々の支えがあってこそ成しえられたということです。諸先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。今後、本研究を学校現場で実践し、研究内容を深化・発展させることが本当の意味での感謝につながると思っています。半年間ありがとうございました。

教育相談室より～相談員として思うこと～

近年、子どもたちを取り巻く環境の急激な変化が、いじめ、不登校、暴力行為、非行といった問題行動等にも影響を与えていて憂慮すべき状況にあります。宮古島市においても、その様々な問題を抱える児童生徒・教師・保護者が多数おり、そのニーズに応えるため、宮古島市教育相談室では相談者の意向を傾聴し、問題解決に向けて、真摯な態度で向き合い「心のふれあい」を大切にしながら、常に「最善の利益」を目指し、日々全力を尽くしております。

本来、子どもたちは、その成長過程のなかで様々なことを学び社会的に自立していきませんが、何らかのことが原因で不登校や問題行動等を引き起こす子どもたちがいます。児童生徒・教師・保護者への支援活動を行う過程のなかで改めて思うことは、教育の大切さです。教育とは、英語に訳すとeducationですが、その語源は才能を引き出すこと、すなわち「教育」＝「才能を引き出す」ということのようにです。そのことを前提に考えると、教育の一端を担う我々、相談員も、教師や保護者とともに、悩み、考え、その子の持っている

潜在的能力を引き出し、規範意識の醸成・社会性の涵養などを図りながら、才能を開花させていくことが大切だと思います。

「世界に一つだけの花」という歌の中に ♪～そうさ僕らは 世界に一つだけの花 一人一人違う種を持つ その花を咲かせることだけに 一生懸命になればいい 小さい花や大きい花 一つとして同じものはないから No.1 にならなくてもいい もともと特別なOnly One～ ♪ という歌詞がありますが、次世代を担う子どもたちが自分に自信を持ち、蕾のままに終わらず誇らしげに花を咲かせることを願います。



教育相談員：砂川和子・島尻君枝・前川尚代・久貝清順

「まていだ教室」での学び

教育研究所に赴任してあつという間に2年の月日が流れました。振り返ってみますと、これまでの教師生活とは違った様々な学びと、多くの出会いが私を成長させてくれました。県内の適応指導に関わる先生方との情報交換や研修会は、視野を広くさせて頂き、とても有意義でした。毎日の実践の中では、一人一人の子どもを受け入れ、心のサインを見逃さずあきらめずに支援していくことの大切さや、あたりまえのことがあたりまえにできることの重要性が、教育の原点であることを強く実感させられました。また、様々な要因で学校に不適應を起こしている子どもを、よりよい状態に導いていくための正しい情報連携や、心でつながり行動連携は、人としての在り方や考え方を気づかせてくれました。さらに、音楽を取り入れた支援を試みたことが子どもの心を明るくし、変容に向かわせたことに対し、改めて「音楽の持つ力」に気づくこともできました。音楽教師として子どもたちから勇気をもらい前向きになれたような気がします。

しかし、その反面、心が折れそうな日があったことも事実です。困難にぶつかった時、いつも研究所職員の励ましや支えが私の心を奮い立たせてくれたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

この2年間、適応指導教室で様々なタイプの子どものことに関わったことにより、親の在り方や教師としての姿勢を改めて見直し考えることができました。研修の機会を与え貴重な体験をさせて頂いた教育行政の皆様へ感謝しています。

教職25年目を終えた今、新たな気持ちでスタートし、この経験を糧として学校現場に生かし、子どもたちと共に成長していける教師でありたいと思います。

指導教諭 宮国 貴子

「まていだ教室」に来る心因性不登校の子どもたちは一日の内にコロコロと気分が変わります。元気に登室したかと思うと数十分後には口を尖らせて拗ねたり、うつむいて無気力感を放ったり、三十分以上も黙ったまま座っている場合もありました。もちろんその逆もあります。その原因は、私たちには何てことのない小さなことなのですが、彼らにとっては大きな壁に感じるようです。

例えば、ある児童に卓球を勧めると笑顔で即答しましたが、実際にはラケットを持つことすらしません。卓球をやってみた気持ちはあってもラケットを持つことも彼女にとっては初めてなので緊張してしまうのでしょうか。しばらくは、言葉を選びながら声をかけて様子を見守り続けます。そして数ヶ月後、彼女がラケットを持って卓球に参加した時には心の中でガッツポーズをしました。押しは逃げられ、順調かと思うと急に止まってしまう一進一退の毎日です。けれども、こういった子どもたちも成長する時期が来るのです。ラケットが持てた、自分から挨拶ができた、やりたいことを言ってくれた、一人で教室に入れた、こうした簡単にできそうな些細な出来事が成長している大切な証しなのです。

指導員を経験して、このような心因性の子どもたちに関わったことで小さな成長にも目を向けることができるようになったと思います。どんなことでも今までできなかったことができるようになると単純に喜べて、空振りでも気にせず、子どもが葛藤している間も気長に待つことができるようになりました。これは、どのような子どもに関わる場合であっても共通して欠かさない大切な姿勢だと思います。「まていだ教室」で出会った子どもたちに教えられた「先を急ぎすぎることなく、心に余裕を持ち、粘り強く」を心に留めてこれから先、子どもの成長に携わっていきたいです。

指導員 上地 千鶴

本研究所主催の研修事業開始

今年度、本研究所創設以来初となる主催研修を行いました。昨年度、先生方をお願いしたアンケートの結果、夏休み中の実技研修の希望が多かったことや教育事務所、教育センターの短期研修等を考慮し、HP作成と美術・図工の実技研修を行いました。

① 学校HP更新のための研修会

6月29日 平良第一小学校

宮古地区は昨年度、学校HP設置100%を達成しました。しかし、HPの更新室は芳しいものではありません。HP更新のために、運営の概略とHTMLの書き方の基礎を内容として研修会を行いました。

なるべく早く開催したいと考えていましたが、1学期も終わりのこの時期になってしまいました。



②④ HP作成研修A・B

A…8月4日 B…8月6日 南小学校

夏休み実技講習会2・3として、HP作成研修を行いました。①の更新のための研修会とは違って、ほとんどの時間を使って作成をしてもらいました。

A(初級)では、HTMLで基本的なHPを作ってもらいました。また、B(中級)では、小窓を開けたり、CSSを用いてHPに飾りを付ける演習を行いました。



③ 美術・図工実技講座

8月5日 下地庁舎1F

池間中学校の平良校長を講師にお招きして、主に感想画の描き方について、実技研修会を持ちました。自作の教具をはじめ、たくさんの準備をしてくださりました。始まる前は、絵を描くのが苦手だと不安がっていた方もいらっしゃいましたが、みなさんとともに、楽しそうに実技に臨んでいました。先生方の授業改善に成果が出ることを期待しています。



琉球大学教育学部との連携事業

琉球大学教育学部と連携協定を結んで3年目が過ぎようとしています。これまでに、「教育フォーラムin宮古」をはじめとして、大学の先生方による研修会を開催してきました。今年度は、上野中学校の食育研究に琉大の森山先生に携わって頂きました。

また、緒方教授による学校巡回支援事業も始まっています。この事業は、沖縄本島にいるスタッフが宮古島のスタッフと協力し、宮古島の保育所、幼稚園、小学校をへの特別支援教育に関する巡回支援を行い、宮古地区に特別支援教育ネットワークシステムを構築しようとする研究です。

本研究所が連携事業の窓口を努めていますので、校内研究への支援、または、希望する研修会があれば、気軽に相談してください。



運営委員会を開催

6月18日・2月19日

今年度から、「運営委員会」を開催しています。学校長代表2名、教育行政から2名、学識経験者1名の5名の方に委嘱し、本研究所の運営や事業等について協議をしてもらっています。

研究所も学校の支援を目標として年間の目標を立て、自己評価を行いながら運営しています。また、常に今学校現場が必要としている支援は何かということを意識しています。学校現場のニーズを捉えるため、研修会の際には感想や希望を書いていただいたりもしております。

研究所にやってほしいことや事業においてお気づきの点等がありましたら、電話・メールでも結構ですので、お知らせください。

